

源流からのたより「ぽたり」Vol.50 2021 春号

「紀伊山地の索道」

令和3年(2021)3月発行

「森と水の源流館」の機関紙「ぽたり」のなかで「吉野川・紀の川源流の遺跡」シリーズで歴史に詳しい職員、成瀬匡章氏が紹介します。

今回は「紀伊山地の索道」と題し ～険しい尾根を越え、つなぎ、届けた先人たちのおもい～

奈良県の南半分は紀伊山地に点在する集落で暮らしている。明治から昭和にかけて木材や鉱物などを運び出す手段として「索道」が設置された。奈良県最初の索道は明治45年(1912)五條市二見から野迫川をつなぐ「大和索道」が完成。木材・樽丸・鉱石のほか凍り豆腐などが運ばれた。これを機に各地に索道が設置されました。

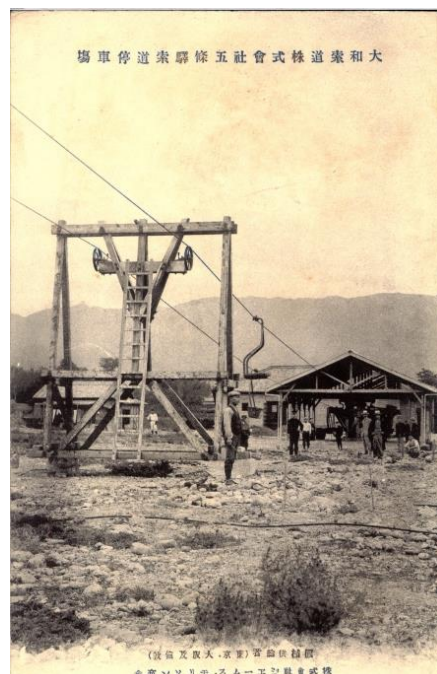
道路整備が進むと索道は廃止され、大和索道も昭和35年(1960)頃廃止された。

索道施設は撤去され存在すら忘れられています。

最近、こうした日本の近代化に関わった、今は忘れられてしまった施設に目を向ける人が増えています。



大和索道桎辻停車場（五條市桎辻）
写真提供：成瀬匡章氏



大和索道の終点（五條市二見）
写真提供：成瀬匡章氏